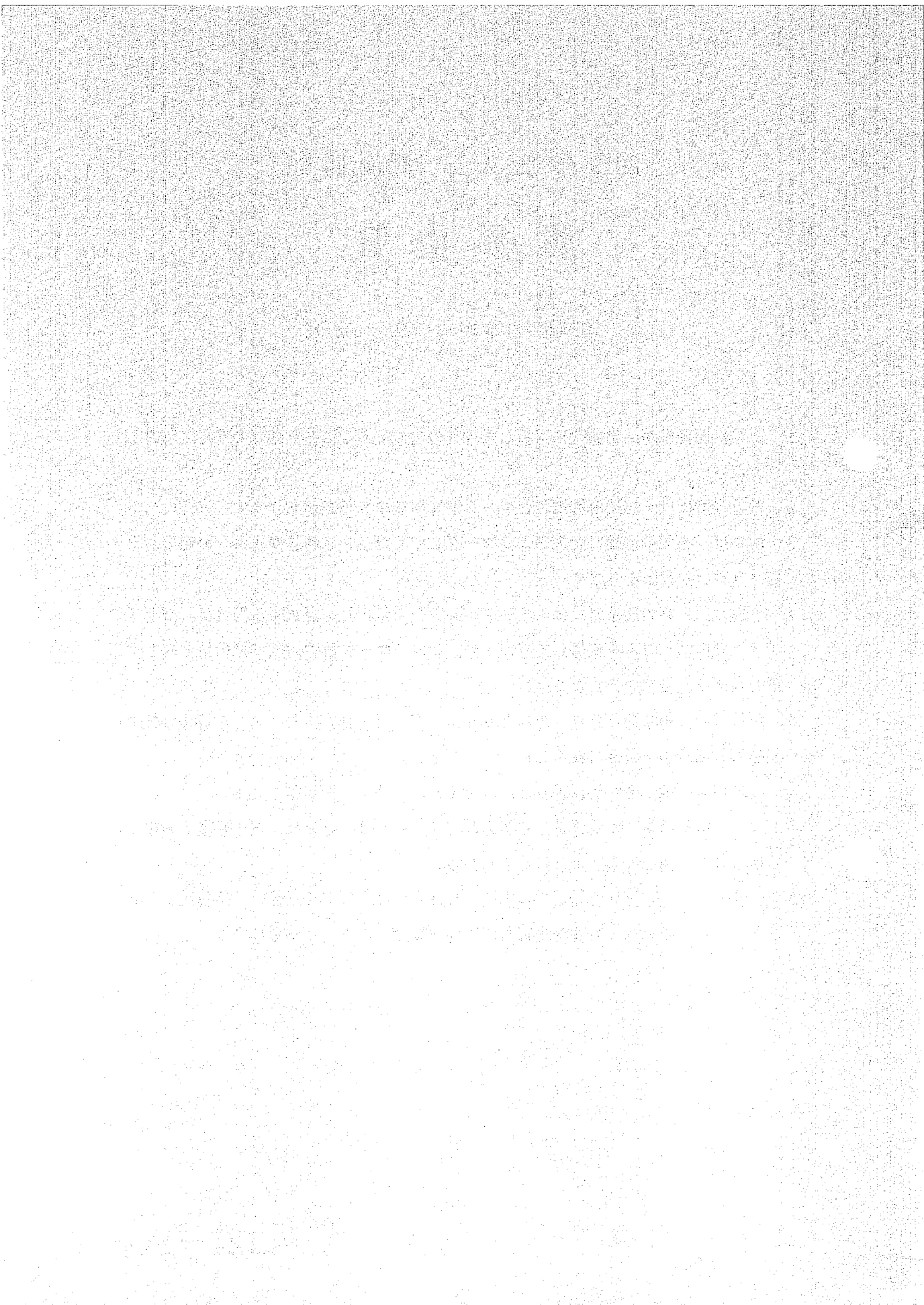


2019 年度 入学 試験 問題

世界史 B

(試験時間 10:30~11:30 60分)

1. この問題冊子が、出願時に選択した科目のものであることを確認のうえ、解答してください。
2. 解答用紙には、記述解答用紙とマーク解答用紙の2種類があります。
3. 解答は、必ず解答欄に記入およびマークしてください。解答欄以外への記入およびマークは無効となります。
4. 解答は、HBの鉛筆またはシャープペンシルを使用し、訂正する場合は、プラスチック製の消しゴムを使用してください。特に、マーク解答用紙には鉛筆のあとや消しくずを残さないでください。
5. 解答用紙を折り曲げたり、汚したりしないでください。また、マーク解答用紙を記述解答用紙の下敷きに使用しないでください。
6. 解答用紙には、必ず受験番号と氏名を記入およびマークしてください。
7. マーク解答用紙への受験番号の記入およびマークは、コンピュータ処理上非常に重要なので、誤記のないようにしてください。
8. 一度記入したマークを修正する場合、しっかりと消してください。消し残しがあると、マーク読み取り装置が反応して解答が無効となることがあります。



I 以下の文章を読み、空欄A～Jに入る最も適切な語句を記述解答用紙に記入し、設問に答えなさい。ただし、同じ記号には同じ語句が入る。(50点)

15世紀末から16世紀中頃まで、イタリアを戦場として断続的に展開されたフランスとハプスブルク家との間の戦争はイタリア戦争と呼ばれる。

1494年、フランス王がイタリアに侵攻し、神聖ローマ皇帝(A)がこれに対抗してイタリア戦争が始まった。当時のフランスは、1453年に百年戦争を終え、中央集権体制を固めつつある一方、産業の発達は遅れていたため、イタリアの進んだ経済力を支配下におきたいという事情が背景にあった。他方、イタリアは神聖ローマ帝国の領域に含まれ、歴代の神聖ローマ皇帝はイタリア政策に強い関心を持ってきた。

1519年、神聖ローマ皇帝(A)の死後、孫のスペイン王カルロス1世とフランス王(B)が神聖ローマ皇帝選挙で争い、カルロス1世が神聖ローマ帝国皇帝に選出され(C)となる。これによってハプスブルク家領にフランスが包囲されることになり、フランス王(B)は重大な脅威を受けることになったため、フランスは戦略上イタリアを確保することが必要になった。

この時期のイタリア戦争に大きな影響を持っていたのが、ドイツにおいて1517年に始まった宗教改革と、東方からのオスマン帝国の侵攻であり、(C)は両面から攻撃される形となった。また、(C)はイタリア戦争やオスマン帝国との戦争の情勢のために、ルター派への妥協を強いられることになった。

1557年には、フェリペ2世がイギリスのメアリ1世に要請し、イギリスがフランスに出兵したが、イギリス軍はギーズ公の率いるフランス軍に敗れ、翌年、百年戦争以来フランス内に残っていた唯一のイギリス領であった(D)はフランスに奪回されてしまった。

1559年の(E)条約でイタリア戦争は終結したが、ハプスブルク家とフランス王家との対立は18世紀までヨーロッパの国際関係の重要な対立軸となった。

フランス王アンリ2世は1559年に平和を祝って行われた馬上槍試合で致命傷を負い、15歳の息子フランソワ2世が王位を継ぐが、フランソワ2世も1560年に死去する。フランスは混乱に陥り、30年以上にわたるユグノー戦争が1562年に勃発したこ

とがそれに拍車をかけた。戦争が長期化する中、(F) 朝が断絶すると、アンリ 4 世の即位によって新たにブルボン朝が成立し、戦争を終結させた。この後、ブルボン朝では、王権が強化されて絶対王政が形成されていく。

1610 年にルイ 13 世が王位に就くと、内政面では、王権を制約していた三部会を停止し、宰相に登用したリシュリユーとともに、財政改革を進め、対外的には 1618 年に始まった三十年戦争に積極的に介入した。

⑦
1643 年に幼少のルイ 14 世が王位に就くと、貴族たちが高等法院を中心に、王権の強化に対抗して (G) を起こした。この反乱は長期化した。リシュリユーに代わって宰相となっていたマザランの活躍もあって鎮圧に成功すると、王への権力の集中はさらに進んだ。

マザランの死後ルイ 14 世は、親政を開始し強大な権力をふるい「太陽王」と呼ばれた。しかし、1685 年にルイ 14 世が (H) を廃止し、カトリック重視政策を展開すると、経済界で活躍してきたユグノーが次々と亡命し、フランス経済に打撃を与えた。また、王は増強した軍隊を用いて、侵略戦争をたびたび引き起こしたが、必ずしも十分な成果をあげることはできず、むしろ国民は、多額の戦費を賄うための増税に苦しむこととなった。

1700 年にスペインのハプスブルク家が断絶した時、ルイ 14 世の孫が (I) としてスペイン王位を継いだが、オーストリアのハプスブルク家が反対し、スペイン継承戦争とユトレヒト条約によって、スペイン・フランス両国が合同しないことを条件にブルボン家のスペイン王位継承が認められた。

⑧
スペイン継承戦争で神聖ローマ皇帝を支援したプロイセンは 1701 年に王位を与えられ、プロイセン王国となった。フリードリヒ大王は絶対王政の強化に努め、また啓蒙思想に共鳴して「君主は国家第一の下僕」と称し、国政改革に努め、啓蒙専制君主の典型とされる。⑨
またフリードリヒ大王はオーストリアのマリア=テレジアのハプスブルク家領継承に反対する諸国に同調してオーストリア継承戦争に介入し (J) を占領した。その後、イギリスの支援を得ながら失地回復を目指すオーストリアと七年戦争を戦い、(J) を確保してプロイセンの強国化を実現した。フランスは両戦争と並行する形で、新大陸でイギリスと植民地を巡る戦いをくりかえした。結果的にフランスは、七年戦争と並行して行われたフレンチ=インディアン戦争に破れ、北

米植民地のほとんどを失った。 こうして 18 世紀後半には、イギリスが植民地帝国の基礎を築く一方で、フランスは勢力を後退させ、その国力は次第にかげりを見せ始めたのである。

問 1 下線部①に関連して、シチリア王となり、第 5 回十字軍でキリスト教徒のエルサレム巡礼を再度可能にした神聖ローマ皇帝を次から 1 つ選び、マーク解答用紙にマークしなさい。

- ア. コンラート 4 世
- イ. ルドルフ 1 世
- ウ. ハインリヒ 6 世
- エ. フリードリヒ 2 世
- オ. カール 4 世

問 2 下線部②に関連して、1356 年の金印勅書で定められた選帝侯ではないものを次から 1 つ選び、マーク解答用紙にマークしなさい。

- ア. バイエルン公
- イ. ケルン大司教
- ウ. トリーア大司教
- エ. ブランデンブルク辺境伯
- オ. ザクセン公

問 3 下線部③に関連して、この当時のハプスブルク家の支配領域ではないものを次から 1 つ選び、マーク解答用紙にマークしなさい。

- ア. ハンガリー
- イ. ネーデルラント
- ウ. ミラノ
- エ. ナポリ王国
- オ. ジェノヴァ

問4 下線部④に関連して、オスマン帝国について誤っているものを次から1つ選び、マーク解答用紙にマークしなさい。

- ア. スレイマン1世はニコポリスの戦いでハンガリー軍を撃破した。
- イ. バヤジット1世はティムールにアンカラの戦いで敗れ、オスマン帝国は解体の危機に瀕した。
- ウ. メフメト2世の指揮のもと、ビザンツ帝国を滅ぼし首都をコンスタンティノープルに移した。
- エ. セリム1世の時代にマムルーク朝を滅ぼし、シリア・エジプトを併合した。
- オ. 第2次ウィーン包囲失敗後、カルロビッツ条約で領土を失った後、守勢にまわった。

問5 下線部⑤に関連して、アウクスブルクの和議における宗派選択の原則について、記述解答用紙に60字以内で述べなさい。

問6 下線部⑥に関連して、ユグノー戦争について、誤っているものを次から1つ選び、マーク解答用紙にマークしなさい。

- ア. アンリ4世は即位後、新教から旧教に改宗した。
- イ. フランスでは16世紀半ばにカルヴァン派の新教徒ユグノーが無視できない勢力となった。
- ウ. パリでは1572年のサンバルテルミの虐殺で多くの旧教徒が殺害された。
- エ. ユグノー戦争はシャルル9世の治下に勃発した。
- オ. 思想家ボーダンがユグノー戦争のさなか、国王の権力を国家主権概念を用いて擁護した。

問7 下線部⑦に関連して、三十年戦争はそれが始まった時点と終わった時点では戦争の性格が変化していた。その変化について、以下の語句をすべて用いて記述解答用紙に100字以内で説明しなさい。なお、用いた語句には下線を引きなさい。

フランス　ハプスブルク　ペーメン

問 8 下線部⑧に関連して、この条約によってイギリスがスペインから得た領土を次から1つ選び、マーク解答用紙にマークしなさい。

- ア. ジャマイカ
- イ. ジブラルタル
- ウ. カナリア諸島
- エ. マルタ
- オ. キプロス

問 9 下線部⑨に関連して、いわゆる啓蒙専制君主について誤っているものを次から1つ選び、マーク解答用紙にマークしなさい。

- ア. フリードリヒ大王はユンカーの勢力を弱め、農民の地位の改善に努めた。
- イ. ヴォルテールはフリードリヒ大王やエカチェリーナ2世と交流し、啓蒙専制君主による社会改革に期待した。
- ウ. ヨーゼフ2世は宗教面での寛容政策や農奴解放など国内の近代化に努めたが、国内に多民族を抱え改革は困難を極めた。
- エ. エカチェリーナ2世は啓蒙専制君主として知られるが、プガチョフの農民反乱後は、貴族の特権を認め、農奴制を強化した。

問10 下線部⑩に関連して、英仏間で戦われた植民地戦争について誤っているものを次から1つ選び、マーク解答用紙にマークしなさい。

- ア. ジョージ王戦争はオーストリア継承戦争に並行してアメリカ大陸で起こった。
- イ. イギリス東インド会社のクライブは、ブラッシーの戦いでフランスとベンガル太守連合軍を破り、イギリスによるインド制圧の端緒を作った。
- ウ. 17世紀末のイングランド銀行設立などで財政革命を実現したイギリスは戦費調達で優位に立っていた。
- エ. アン女王戦争の結果、イギリスはアカディア・ニューファンドランド島などを獲得した。
- オ. フレンチ=インディアン戦争の結果、仏領ルイジアナのすべてがイギリスに譲渡された。

II 以下の文章を読み、空欄A～Hに入る最も適切な語句を記述解答用紙に記入し、設問に答えなさい。ただし、同じ記号には同じ語句が入る。(50点)

(一) 伝統的な東アジアの歴史においては、中国皇帝が周辺諸国の首長に対して中国の官位や称号を与えて名目的な君臣関係を結ぶ、(A) 体制という国際秩序があった。この体制は、(B) とそれに対する皇帝からの返礼品 = 「回賜」^{かいし}を基本とした。とはいえ、中国は間接統治地域や版図外には不干涉であり、比較的緩やかな統治がなされていた。中国から見れば、朝廷の儀式において、ある世界観に基づいた儀礼的行為がなされていれば、それで体面は守られるということであった。^①

日本列島の小国のうちには後漢と関係を結ぶ国もあった。例えば奴国は『後漢書』によれば、後漢に(B) し、光武帝から印綬を受けたとされる。ただし、7世紀には日本(倭)が百済を救援し、唐と新羅の連合軍に敗退するという紛争もあった。^②^③

江戸時代に入ると江戸幕府は、「鎖国」という体制をとっていたが、中国や朝鮮半島との交流は途絶えていなかった。^④

(二) 近代に入ると、東アジアにおいては従来の国際秩序が解体し、西洋的な国際秩序に組み込まれていった。こうした情勢の中で、東アジアの国際関係には、イギリス・フランス・アメリカ・ロシアなども加わっていく。これにより、東アジア諸国は、積極的であれ消極的であれ、西洋の枠組みに対する対応を迫られていき、結果的に東アジアの国際政治秩序が再編されていく。^⑤

特に清朝においては、アヘン戦争の講和条約として結ばれた(C) 条約や、中国に(B) していた(D) が1872年に日本に藩として位置づけられたことや、東アジアにおいて2つの「条規」が日清・日朝の間で結ばれたこと^⑥など、従来の東アジアの国際秩序とは明らかに異なる国際関係が生まれていった。ベトナムに関しても、1802年に成立した(E) 朝は、フエ(ユエ)を都に定め、清の(A) を受け、中国をモデルとする統治を行っていたが、清仏戦争が起こった結果、フランスのベトナムに対する保護権が認められたため、

(E) 朝と清との (A) 関係は解消されることになった。

(三) 19世紀後半、朝鮮半島では清と日本がそれぞれの利害によって対立し、日清戦争へと至った。^⑦この日清戦争の結果結ばれた下関条約では、賠償金の支払いと、朝鮮の完全な独立とともに、遼東半島、台湾、(F) 諸島の割譲などが取り決められた。朝鮮半島はその後、いくつかの段階を経て日本に併合されていく。他方、清では日清戦争後、日本などを模した立憲君主制の樹立を求める動きがあった。農村部では反西洋の動きの中で、義和団が出現し、これを朝廷は支持して列強に宣戦した。列強はこの運動を鎮圧して辛丑和約 (北京議定書)を締結し、^⑧清に賠償金を支払わせた。^⑨

(四) 日本が第二次世界大戦で敗戦し、朝鮮半島から撤退すると、朝鮮の独立問題が惹起される。朝鮮半島では第二次世界大戦後、南にアメリカ合衆国軍、北にソ連軍が進駐して分割管理した。^⑩冷戦の影がアジアを覆う中、南側では (G) 大統領を中心とする大韓民国が成立した。他方北側ではソ連の支援を受けた金日成が率いる (H) 党が朝鮮民主主義人民共和国を成立させた。その後朝鮮戦争が勃発し、休戦協定が結ばれた。

大韓民国は朝鮮戦争後、いわゆる自由主義諸国の一員となる。その韓国は日本と日韓基本条約を結び、^⑪外資の導入とともに開発独裁のもとでの輸出工業の育成に努めていく。韓国は日本やアメリカから資本や技術を導入して経済発展への足がかりをつかみ、^⑫1970年代には目覚ましい発展を遂げた。

経済成長を遂げた韓国も含めて、現代のアジアでは1980年代以降、経済的な連携が進んでいる。東アジア地域についてもASEAN+3、RCEP、SCOなどの地域連携協定が存在する。^⑬こうした中、かつては東アジア共同体構想なども提案されていたが、現在では同構想は下火になっている。

問1 下線部①に関連して、まさにこうした調見の方法が問題になった事例として、イギリスによってアマーストに先立ち派遣され、清国に対して貿易の拡大や規制緩和を求めた人物の名前を記述解答用紙に書きなさい。

問2 下線部②に関連して、福岡県志賀島で発見された金印に刻印されている語句（5文字）を記述解答用紙に書きなさい。

問3 下線部③に関連して、この戦いの名称を何というか。記述解答用紙に書きなさい。

問4 下線部④に関連して、この時期、日本は朝鮮からの使節を受け入れていた。その仲介の窓口となった日本側の地名を記述解答用紙に書きなさい。

問5 下線部⑤に関連して、ロシアと中国の関係について、誤っているものを次から1つ選び、マーク解答用紙にマークしなさい。

ア. 雍正帝の治世にキャフタ条約が締結され、新疆での境界が定められた。

イ. 康熙帝の治世にネルチンスク条約が締結され、黒竜江の上流部と外興安嶺を国境とした。

ウ. アイグン条約では黒竜江以北をロシア領とし、ウスリー川以東を清とロシアの共同管轄とした。

エ. 北京条約では沿海州をロシア領とし、ロシアはウラジオストク（ウラジヴォストク）に軍港を建設した。

問6 下線部⑥に関連して、日朝修好条規の説明として誤っているものを次から1つ選び、マーク解答用紙にマークしなさい。

ア. 日朝修好条規は日清修好条規より後に締結された条約である。

イ. 日朝修好条規は江華島事件を口実に結ばれた。

ウ. 日朝修好条規では関税の免除が日本と朝鮮の双方に認められた。

エ. 日朝修好条規では朝鮮半島の釜山を含む3港の開港が決められた。

オ. 日朝修好条規では領事裁判権が日本側のみに認められた。

問7 下線部⑦に関連して、以下の事件の説明と事件名の組み合わせのうち、正しいものを次から1つ選び、マーク解答用紙にマークしなさい。

- a 開化派の金玉均が閔氏へのクーデターを起こした。
- b 全瑛準の起こした反乱が朝鮮半島南部を中心に拡大した。
- c 軍隊が大元君を擁立し閔氏一派と日本公使館を襲撃した。

い 甲午農民戦争 ろ 壬午軍乱 は 甲申政変 に 戊戌の政変

ア. a = い b = は c = に

イ. a = ろ b = に c = い

ウ. a = は b = ろ c = い

エ. a = に b = い c = は

オ. a = は b = い c = ろ

カ. a = い b = ろ c = は

問8 下線部⑧に関連して、清の全権大使としてこの条約締結会議に参加し、かつ北洋艦隊を建設した人物の名前を記述解答用紙に書きなさい。

問9 下線部⑨に関連して、義和団事件の鎮圧に参加した列強のうち、アメリカは辛丑和約で得た賠償金を中国からアメリカ合衆国への留学費用にあてたが、その予備学校として設立された学校の名称を記述解答用紙に書きなさい。

問10 下線部⑩に関連して、現在の朝鮮半島において、北朝鮮と韓国をわける緯度として、正しいものを次から1つ選び、マーク解答用紙にマークしなさい。

- ア. 35度
- イ. 36度
- ウ. 37度
- エ. 38度
- オ. 39度
- カ. 40度

問11 下線部⑪に関連して、この条約が結ばれた時の韓国の大統領として、正しいものを次から1つ選び、マーク解答用紙にマークしなさい。

- ア. 崔濟愚
- イ. 朴正熙
- ウ. 全斗煥
- エ. 盧泰愚
- オ. 金泳三
- カ. 金大中

問12 下線部⑫に関連して、1970年代に目覚ましい発展を遂げた国と地域を総称して何と呼ぶか、略称もしくは正式名称を記述解答用紙に書きなさい。

問13 下線部⑬に関連して、1967年のASEAN結成時に加入していなかった国を次から1つ選び、マーク解答用紙にマークしなさい。

- ア. タイ
- イ. シンガポール
- ウ. カンボジア
- エ. インドネシア
- オ. マレーシア
- カ. フィリピン

問14 波線部に関連して、日本が韓国を併合していく過程を、以下の語句をすべて用いて記述解答用紙に120字以内で説明しなさい。なお、用いた語句には下線を引きなさい。

高宗 朝鮮総督府 統監府 日韓協約
ハーフ万国平和会議 武断政治 保護国化

—

—

